

平成23年3月9日

平成22年度「高校教育のクオリティアップ支援事業」研究成果報告書

学校番号	学校名	課程
60	吉城高校	全日制

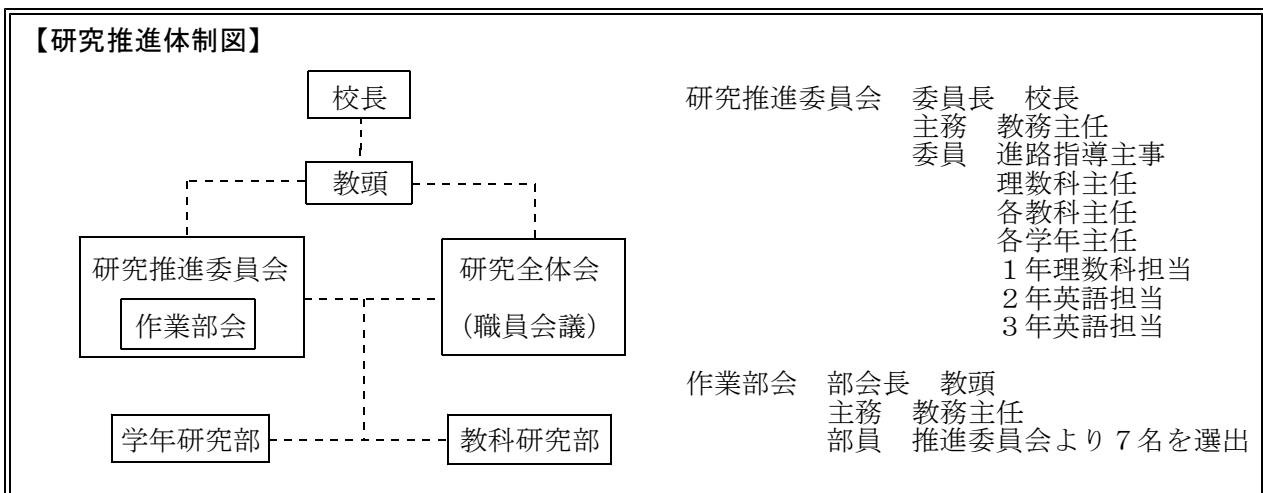
1 研究のねらい

中学校の学習内容が定着していない入学時の本校生徒に対して、3年間で十分に行き届いた指導をやりきることにより進路希望を実現させ、地域や保護者の期待に応えられる存在感のある学校とする。

2 研究主題

- ・授業改善を進め、進路目標を達成できる学力を育成する。
- ・生徒の個に応じた教科指導力と向上心をもたせて最後まで努力させる進路指導力を向上させる。

3 研究推進体制



4 実施日程

実施 時期	実 施 事 項			
	研究授業等	研修会・推進会議等	他校訪問等	調査・研究等
4月		作業部会①		進路希望調査①
5月		研究推進委員会① 全体会①		
6月	公開授業週間① 研究授業①	全体会② 進路指導研修会①	中学校授業参観①	生徒授業評価①
7月	研究授業②		北飛中高連絡会① 他校訪問	学校関係者評価 生徒学校評価①
8月		全体会③		
9月		作業部会② 研究推進委員会②		
10月				進路希望調査②
11月	研究授業③	指定校連絡会議①	中学校授業参観②	生徒授業評価②

12月	研究授業④ 公開授業週間②	作業部会③ 全体会④ 作業部会④	北飛中高連絡会②	
1月		進路指導研修会②		生徒学校評価②
2月		指定校連絡会議②		研究成果報告
3月		全体会⑤		

5 研究内容

1 生徒授業評価

生徒の授業への取り組みに対する自己評価や、教員に対する評価を得ることによって、授業改善への契機となる具体的なデータを得る。

21, 22年度と客観評価を取り入れ、指定するクラスについては集計して分析し、全職員で授業改善に向かう材料とする。

- (1) 全授業クラス対象
- (2) 項目別4段階評価と記述式
- (3) 6月, 11月に実施
- (4) 生徒自己評価6項目と授業評価13項目
- (5) 4段階評価を抽出クラスで集計し, 各教科研究部, 学年研究部で活用
- (6) 全体会議で報告

2 公開授業

他の授業を積極的に見学して自分の授業を振り返る。また, 多くの目で見て評価されることでよりよい授業へと改善できる。

- (1) どの授業も自由に見学
- (2) 6月21日～7月2日, 12月6日～17日 各2週間
- (3) 期間内に必ず2名以上の授業を見学
- (4) 公開授業評価票に記入し教務へ提出したのち各授業者へ配付

3 研究授業

学校支援訪問(要請訪問)や初任者研修を利用して研究授業を実施する。

研究授業の目的を明らかにして授業研究会を活発に行い, 授業改善に直接つなげる。

- 6月4日 深尾出路(数学), 中村香月(理科), 鈴木泰輔(英語)
- 7月2日 長柄順喜(地歴公民), 日比野真(保健体育)
- 10月29日 長柄順喜(地歴公民), 日比野真(保健体育)
- 11月8日 寺林真一(国語), 上嶋善治(地歴公民)
- 11月9日 長柄順喜(地歴公民), 日比野真(保健体育)

4 中学校授業研究会への参加

学力差に対応した授業をどのように進めているか, 生徒が主体となるためにどのような工夫がされているか, 少人数ならではの授業とはどのようなものか, を重点に小中学校の研究授業と授業研究会に参加する。

- 第2回飛騨市教育研究会 6月23日 神岡中学校 上嶋善治(地歴公民)
宮川中学校 小竹隆哉(理科)
古川中学校 鈴木泰輔(英語)
- 第4回飛騨市教育研究会 11月11日 古川中学校 日比野真(保健体育)
宮川中学校 八木麻由美(国語)
古川西小学校 鈴木泰輔(英語)

5 進路指導研修会

進学実績が個々の教員の力量によって左右されたり, 学年としての指導実績が引き継がれて行かない現状がある。若手教員のみならず進学校を経験していない教員も多い中, 進路指導力を向上させるために, 進路指導部による校内研修会を実施する。

- 6月14日 「理数科3年間の軌跡」 講師 小原誠(進路指導部)
- 1月26日 「国公立大学受験準備講座(2年)」 講師 下嶋和長(進路指導部)
中村香月(3年担任)
- 2月7日 「国公立大学受験準備講座(1年)」 講師 小原誠(進路指導部, 数学)
中田和美(国語)
藤守学(英語)

6 他校訪問

進学実績と設置学科，地域性などから学校を選んでその実践を学ぶ。

- (1) 訪問者 下嶋和長（英語），大坪博孝（数学）
- (2) 7月29日 広島県立三次高等学校
- (3) 8月23日 第7回職員会議で詳細に報告し全職員で情報を共有

7 マニフェストの作成

授業のみならず学校全体としてどのような生徒を育てたいのかを意識化するために，全分掌で23年度のマニフェストを検討する。

中学生やその保護者にもわかりやすい数値目標を設定する。

- 7月 生徒・保護者等アンケート（学校評価）実施
- 10月 各分掌会議
- 11月 反省職員会議
- 12月 作業部会で集約
- 1月 学習指導委員会
- 3月 企画委員会，職員会議で決定

8 習熟度別授業の再編

9 自己診断シートの入力

10 クオリティアップ支援事業に関する教員アンケート

本年度実施の諸項目について検証し，次年度に向けての参考資料とする。

6 自己評価

<p>■具体的な重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教科指導力の向上させる。 (2) 確かな学力を定着させ，最後まであきらめさせない進路指導を行う。 (3) 地元中学生の入学志願者を増やす。 														
<p>■目標の達成に必要な具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業評価の継続 公開授業・研究授業・授業研究会の実施 中学校授業研究会への参加 習熟度別授業の改編 (2) 進路研修会の充実 他校訪問 (3) マニフェスト作成 地元中学校との連携強化 	<p>■達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業評価（客観評価）集計値の向上 授業研究会の活性化 習熟度別授業実施クラスやクラス分けの方法についての合意 (2) 情報の共有やノウハウの伝達 他校の実践を学び，本校版として吸収 (3) 中学生にわかりやすい情報発信 地元中学生の志願者増加 													
<p>■取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業部会を中心に職員の意識が改革に前向きになっている。 ・授業改善が確実に進んでいる。 ・進路指導部で模試結果など分析され，現状の学力について共通理解がされるようになった。 	<p>■評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価集計値の向上 ・学力上位層の増加 ・地元中学生の志望者増加 	<p>■評価</p> <table style="border: none;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; text-align: center;">A</td> <td style="border: none; text-align: center;">B</td> <td style="border: none; text-align: center;">C</td> <td style="border: none; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: none; text-align: center;">A</td> <td style="border: none; text-align: center;">B</td> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; text-align: center;">C</td> <td style="border: none; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: none; text-align: center;">A</td> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; text-align: center;">B</td> <td style="border: none; text-align: center;">C</td> <td style="border: none; text-align: center;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D											
A	B	C	D											
A	B	C	D											

7 学校関係者評価委員による評価・意見など

- ・生徒，保護者，学校関係者アンケートからは，吉城高校の取組みがよく理解されあらゆる改善が進んでいることが分かる。
- ・志願者数が定員を下回ることが最も問題である。
- ・地域の方々が学校に来る機会が少なく，吉城高校の良さが伝わっていない。市の広報誌を利用するなど情報発信に工夫すべきである。
- ・理数科の特徴がわかりにくい。理数に特化しているのか，国公立大学進学クラスなのかははっきりとPRするとよい。

8 成果

1 授業評価

各教員 2 クラスずつを指定して実施した。下の評価項目①～⑰について 4 段階評価とした。

【生徒自己評価項目】

質問事項

- ① 授業に対する取り組みはまじめである。
- ② 自ら学ぼうという姿勢で授業に臨んでいる。
- ③ 授業に集中できている。
- ④ 授業内容が理解できている。
- ⑤ 宿題や予習、復習ができている。
- ⑥ 指示された提出物や再試験は期日までに完了している。

【授業評価項目】

質問事項

- ⑦ 授業に対する熱意は伝わりますか。
- ⑧ 授業を進める速さは適切ですか。
- ⑨ 「わかる授業」を意識して進められていますか。
- ⑩ 学力のつく授業ですか
- ⑪ 授業中の声の大きさはどうですか。
- ⑫ 板書の仕方(実技では説明の仕方)はどうですか。
- ⑬ 授業中に質問はしやすいですか。
- ⑭ 遅刻、私語、服装の乱れなどないように授業規律は維持されていますか。
- ⑮ 宿題など自宅課題の内容は適切だと思いますか。
- ⑯ 評定など評価の方法は明瞭ですか。
- ⑰ この授業に対する総合評価(4段階評価)

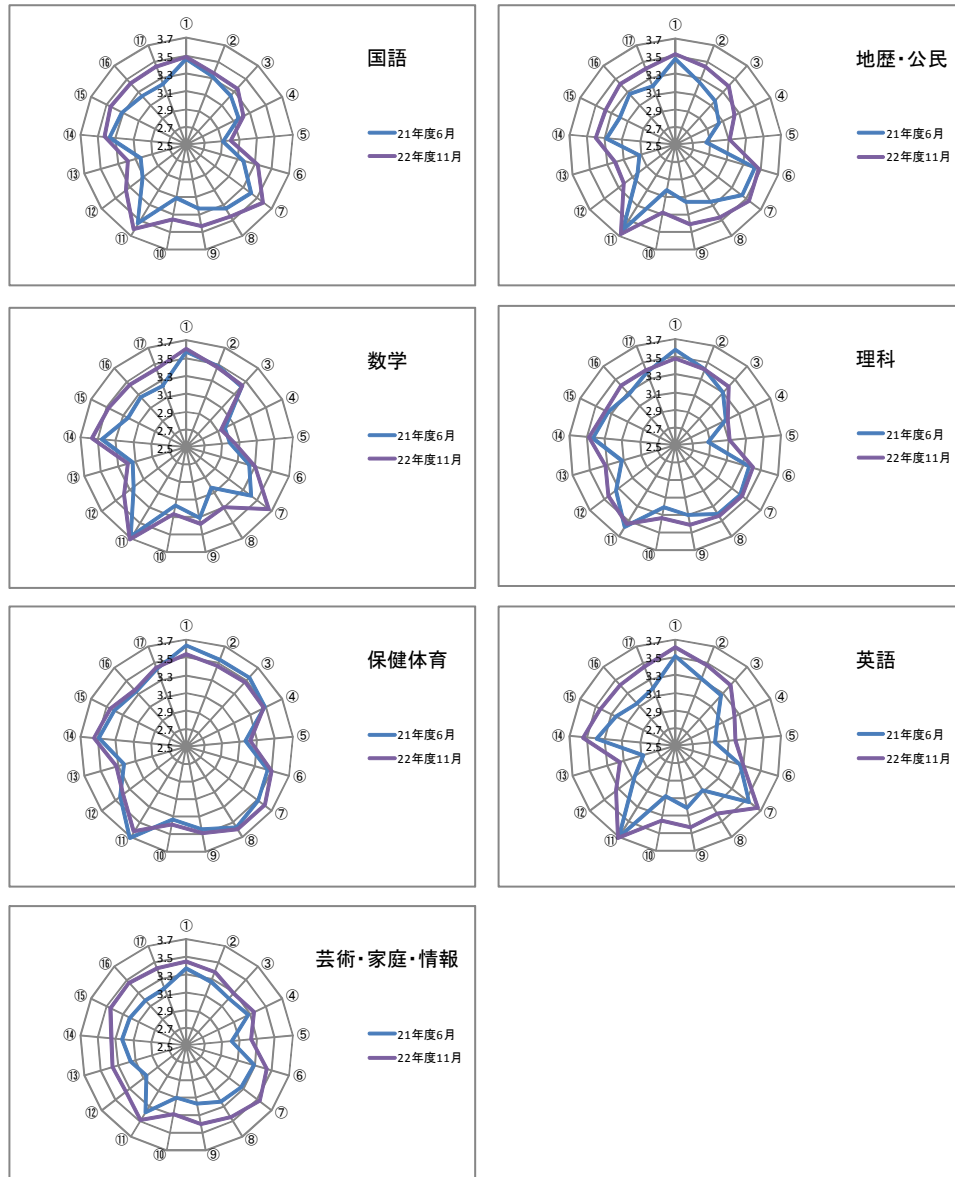


図 1 各教科授業評価比較 (21年6月と22年11月)

(1) 各教科の変化

本事業開始の21年6月から22年11月までの推移をみると、各項目平均値は全教科で確実に上昇し、改善されたことが明らかである(図1)。22年度は特に昨年度の反省をもとに、評価の低かった項目に注目するなどして、各教科統一して取り組むテーマを決めた(表1)。年間を通じて意識的に改善に取り組むことができた成果である。

表1 教科統一テーマ

[国語]	「小テストを実施し、基礎力を養成する。」
[地歴公民]	「生徒の理解を確認しながら、重要事項の定着をはかる。」
[数学]	「チャイムと同時に授業を始める。宿題を授業前に書かせる指導を徹底する。」
[理科]	「授業ごとにまとめを行い、必ず課題を明示する。」
[保健体育]	「到達目標、評価方法の明示」
[芸術]	「授業規律を守らせる。」
[英語]	「毎回の授業で音読を取り入れる。」
[家庭]	「授業の終わりに本時の内容が理解できたかプリントに自己評価する。」
[情報]	「授業課題を適切に設定する。」

特に最も気になる項目で推移を追うと、⑩学力のつく授業か、⑰この授業に対する総合評価は図2のようになった。

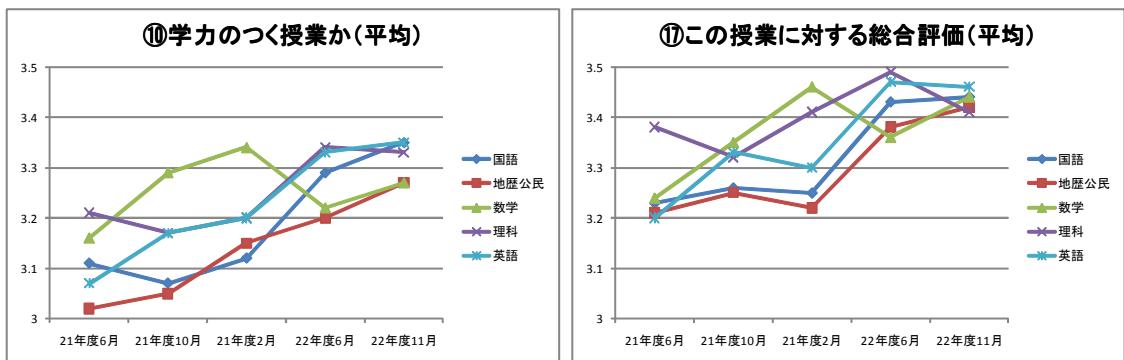


図2 学年ごとの推移

学力がつくと実感できる生徒が極めて多いとは言えないが、増えてきている。総合評価はかなり高い位置に収束してきている。

(2) 学年の変化

各学年について(1)と同様に平成21年度からの推移を見ると図3のようになった。

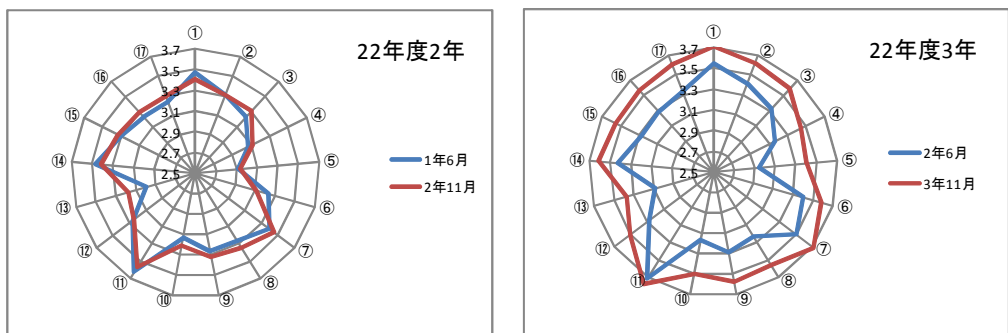


図3 各学年授業評価比較(21年6月と22年11月)

2年生は1年時に比べて授業の改善が進んでいないように見える。3年生では2年時から大きく改善されている。しかしながら3年生の2年6月と2年生のグラフは形、面積ともほぼ同じである。これは、生徒の実感が受験を真剣に意識する2年から3年時に、教員側の意図がきちんと理解され、授業評価が上がるのではないかと。項目⑩、⑰についての経時変化が図4である。2年生と3年生がほぼ重なっているのがわかる。2年生のこれからの推移が興味深い。

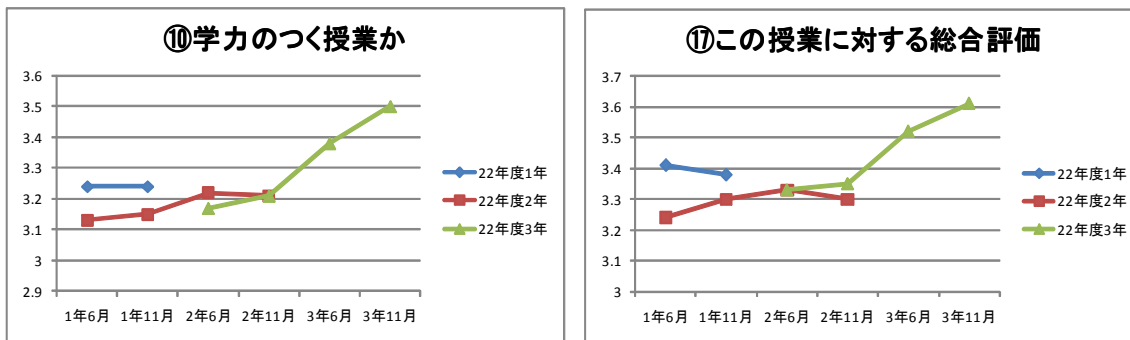


図4 学年別変化

1年生は昨年度の改善の成果が生かされているのか初めから少し高い位置にある。模擬試験等で自分の学力伸長がわかるようになればさらに良い評価になっていくだろう。

2 公開授業

6月、12月とも公開授業評価票（A4判で「参考になった点」「改善が必要と思う点」「その他」について記入）を提出した。他教科の授業を見学することは、授業の導入や展開方法、教材教具の工夫、生徒の動かし方など、参考になることは非常に多く有意義であった。授業者も緊張感が持続でき、ともすると密室で緩みがちな授業が油断なく継続できた。

一方、授業者に遠慮して「改善が必要と思う点」を書かないケースが多くあり、せっかくの機会が生かされていない。

来年度はこれらの点を踏まえ、公開授業週間を年1回とし、研究授業週間を新たに設ける。

3 研究授業

22年度は県教育委員会に要請訪問を2回お願いし、5教科が研究授業を行ってその授業研究会の充実を求めた。指導内容等は次の通りであり、各教科においてその後の実践に生かし、改善を図っている。

国語

- ・読む力をつけるという本時の目標が徹底できていた。
- ・範読が効果的であった。
- ・質問や生徒の意見が全体に反映されていた。
- ・「四方読み」の紹介
- ・言語活動を活発にするためには、指名ではなく生徒同士の活動を取り入れる。
- ・他教科の授業を参考にして家庭学習のさせ方を研究し、授業改善につなげる。
- ・教科会を頻繁に行い、意見交換を常態化させる。

地歴公民

- ・発問を構造化させる。事実確認の質問と思考力をつける質問を準備する。
- ・自信なさげの生徒が気になる。自信をもたせられるよう発問のし方工夫する。
- ・受験学力をつけさせることが共通の目標にはならない。
- ・本校としての到達度を細かく研究し評価につなげる。

数学

- ・導入を工夫する。
- ・何を身につけさせるのか狙いを明確にする。
- ・発問のし方や発想を引き出すことに工夫が必要である。
- ・一斉指導と少人数指導は授業の形態を変える。少人数であることを生かす。

理科

- ・学力のそれほど高くない生徒にも大学教養レベルの地学を教えることができた。
- ・本時の狙いの説明や発問時のし方など昨年度の指摘を実践し、改善されていた。
- ・発問は全員に考えさせるためであり、十分考えさせた後に指名する。
- ・授業中わからない生徒をそのままにしない。もっと負荷をかける。
- ・リアルタイムの授業評価のみならず、卒業してからどう評価されているかも重要である。

英語

- ・通じる発音をていねいに教える。
- ・生徒に考えさせる、考えを引き出す発問を工夫する。
- ・暗写活動は家庭学習に意義をもたせることにつながっている。
- ・家庭学習をしっかりやった生徒を正しく評価し、やる気を起こさせることができれば、上位層を伸ばすことができる。

4 中学校授業研究会への参加

主に次の2つの観点から授業参観し、授業参観記録を提出した。

- ・少人数（習熟度別）を生かすためにどのような工夫がされているか。
- ・生徒が主体となるためにどのような工夫がされているか。

昨年度からのべ12名が小中学校の授業を参観した。高校へ来る生徒が地域でどのように育てられているかよく観察することができた。授業参観記録に、

- ・大人数の一斉指導では、グループ学習の充実が図られていた。
- ・机間指導を念入りに行って生徒の理解の様子を把握していた。
- ・生徒が達成感をもてるよう、自己評価だけでなく相互評価、教師評価していた。
- ・小中ではそのつながりを意識して子どもの育成に取り組んでいる。高校はその延長にあり、これまでの教育を携えて社会に出ていくことをもっと意識して責任感をもって指導に当たらなければならない。

などのメモがあった。

授業計画が綿密になされ取り組むテーマが明確であるため、授業研究会が活発に行われお互いが研鑽し合っている様子がよくわかった。

研究会の席上、中学校で家庭学習を習慣づけられないことについて、副教材等が経済的な理由から購入できないからとの意見があった。一つの側面ではあろうが、根本的な理由ではない。飛騨地区での中学3年生の学力が他地区に比べて低い中、本校では多くの生徒を大学入試レベルまで引き上げなければならない。中学校での基礎学力定着についてお互いに議論すべき機会を増やせるとよい。

5 進路指導研修会

第1回は、平成19年度から理数科1年生を担当して22年3月に卒業させた教諭が、どのような生徒たちをどのように指導して進路目標を達成させたか、模擬試験の成績など詳細な資料から講演した。教科指導、生活指導、進路指導が個々の生徒に対して綿密になされ、集団として様々な経験を積ませることによってチーム理数科が形成され、団体戦として受験を戦い抜いた様子が熱意とともに多くの教員に伝わった。

第2回は、1、2年生の国公立大学進学希望者を集めての講演会に全教員が参加する形をとった。本校の特に普通科の問題点として、学年を追うごとに国公立大学希望者が減少し少人数になった彼らがまわりの雰囲気の流れに流され最後まで必死になって努力を継続できなくなることがある。低学年のうちから希望者を集めて帰属意識を養い、あきらめさせない指導の一つとして企画された。進路指導部を中心にした講演者の話を全教員が聞くことで、普通科生徒に対する教員の意識改革ができていった。

6 他校訪問

昨年度に引き続き、たいへん意義深い訪問であった。ぜひ今後も継続したい。

急激な進学実績の伸びがどのようになされてきたのかよくわかった。その中から本校で実践できることを選び、本校に合った形に変えて実践して行きたい。特に

- ・1、2年生の進路検討会議
- ・グラウンドデザイン（マニフェスト）の作成
- ・成績上位者へのはたらきかけ
- ・部顧問による学習指導

などは興味深く、一部はすでに取り入れている。

7 マニフェストの作成

昨年度より県教育委員会へ報告している本校のマニフェストをもとに、学校全体としてどのような生徒を育てたいのかを意識化するために、全分掌で23年度のマニフェストを検討した。その際、中学生やその保護者にもわかりやすくするためにも、数値目標を設定した。現在、4月発表に向けて調整中である。

8 習熟度別授業の再編

学力差があり進路目標も多岐にわたる本校では、習熟度別授業を充実させていくことが急務である。これまでは教科主導で特に英語、数学、国語において習熟度別授業や少人数授業をそれぞれのスタイルで実施してきたが、3年間でどのように学力をつけるかは学校の方針として組み立てられるべきであり、そのように改善した。

少人数指導を大幅に組み替えて習熟度別授業を多く設けた。全授業時間に対する習熟度別授業時間は、22年度が524時間中27時間（5.2%）だったが、23年度は530時間中61時間（11.5%）になる予定である。

習熟度別授業では評価方法の工夫も必要であり、来年度の課題である。

9 自己診断シートの入力

授業改善について、授業評価など教科や学年でまとめた検証はすでに見たが、教員それぞれが自分の授業を振り返ることも大切である。東京都教員研修センターによる自己診断シートの活用を試みた。本年度6月の第1回支援訪問で紹介されたシートを改良して、本校内ネットワーク上で入力し各自が自己診断できるようにした(表2)。44項目について自己診断して項目別のレーダーチャートから弱点がよくわかる。時を置いて再度入力することで改善の度合いも見られる(図5)。

表2 自己診断シート

授業力向上のための自己診断		4～1を入力してください。		
番号	分類	診断項目	12月	3月
1	使命感・熱意・感性	授業改善を目指し、研修に進んで取り組んでいる。	3	4
2		学習のねらいをすべての生徒に達成させようとしている。	3	4
3		教材研究を行って授業に臨んでいる。	3	2
4		ものごとに対する幅広い関心をもっている。	4	4
5		心と体の調子を整えて授業を行っている。	4	3
6		明るく前向きに生徒に接している。	4	4
7		学習にふさわしい環境づくりを心がけている。	4	4
8	生徒理解	生徒一人一人の学習意欲を把握している。	2	3
9		生徒一人一人の本時の学習の達成状況を把握しようとしている。	2	3
10		生徒一人一人の変化を把握しようとしている。	3	3
11		生徒一人一人のこれまでの学習状況を把握している。	2	4
12		生徒一人一人の発達段階、友達関係、家庭状況等を的確に把握している。	1	2
13		生徒一人一人に気を配り、言葉をかけている。	3	4
14		生徒の発言や行動を共感的に受け止めている。	4	4
15	統率力	生徒の反応や変容に気付き、授業に生かしている。	3	2
16		学習意欲を高めることを意識して言葉をかけている。	3	4
17		基本的な学習ルールを定着させている。	4	4
18		的確な指示を出して集団を動かしている。	4	4
19		学習のねらいを明確に示し、学習に見通しをもたせている。	4	4
20		学習状況に応じて適時・的確な判断を行っている。	4	4
21		生徒に学習の準備についての的確に指示している。	4	4
22	指導技術	授業の初めに学習のねらいを生徒に明確に示している。	4	4
23		個に応じた指導を行っている。	3	2
24		生徒の主体的な学習を促す工夫を行っている。	3	2
25		教材・教具を効果的に活用している。	2	2
26		発問の工夫をしている。	4	4
27		生徒の反応を生かしながら授業を構成している。	4	4
28		分かりやすい説明をしている。	4	4
29		効果的な板書をしている。	4	4
30		授業のまとめを工夫している。	4	4
31		教材解釈・教材開発	教科等の専門知識を深めている。	4
32	日頃から教材に関する幅広い情報を収集している。		4	4
33	学習のねらいを明確に把握して教材解釈や教材開発をしている。		2	1
34	生徒の実態を考慮して教材解釈や教材開発をしている。		2	3
35	学校・地域の特色を考慮して教材解釈や教材開発をしている。		2	2
36	生活との関連を意識して教材解釈や教材開発をしている。		2	2
37	生徒に興味・関心をもたせるための教材解釈や教材開発をしている。		3	2
38	画「指導と評価の作成・評価改善」	時数、活動内容、学習形態等の指導計画を立てている。	4	4
39		場面や方法を明確にした評価計画を立てている。	1	1
40		計画を立てる際に生徒の実態を考慮している。	3	2
41		計画に基づき、生徒の評価を行っている。	4	3
42		指導計画が適切であったかどうかを振り返っている。	2	3
43		評価計画が適切であったかどうかを振り返っている。	1	2
44		振り返りを基に、問題点を明確にして次の計画に生かしている。	2	3

授業力向上のための自己診断結果

2011年3月2日

	12月	3月
使命感・熱意・感性	3.57	3.57
生徒理解	2.43	3.29
統率力	3.67	3.67
指導技術	3.60	3.40
教材解釈・教材開発	2.71	2.57
「指導と評価の計画」の作成・改善	2.43	2.57

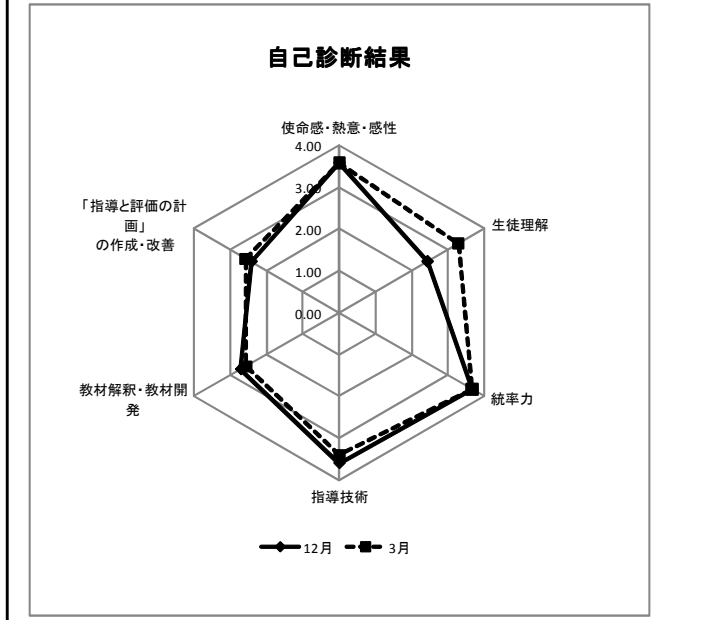
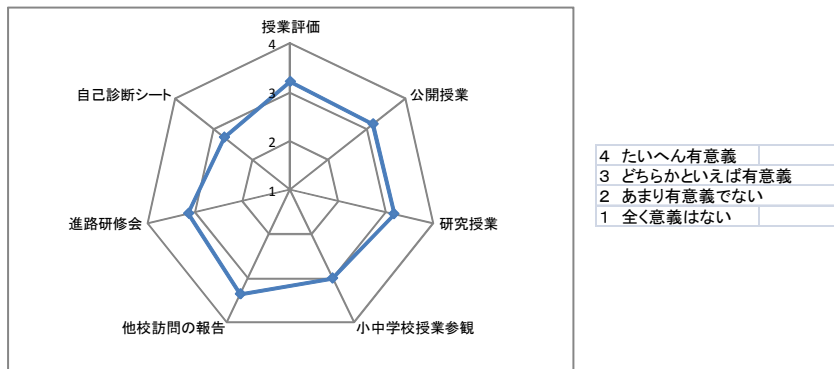


図5 診断結果

平成22年度高校教育のクオリティアップ支援事業 教員アンケートより



4	たいへん有意義
3	どちらかといえば有意義
2	あまり有意義でない
1	全く有意義はない

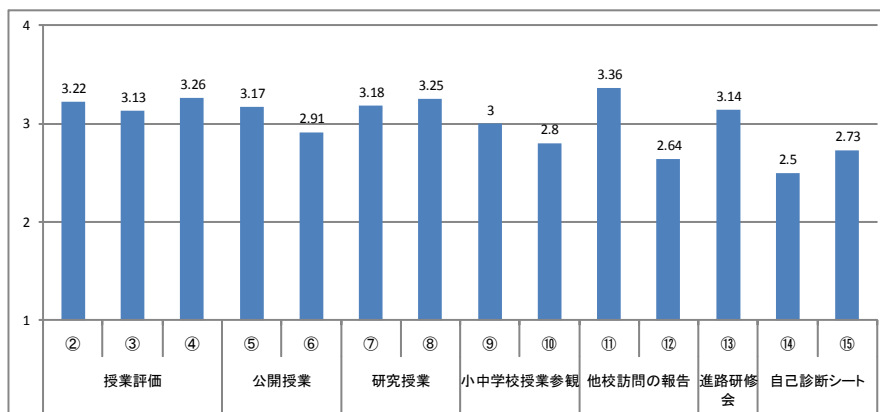


図6 教員アンケート結果より

10 クオリティアップ支援事業に関する教員アンケート

本年度の取り組みについて以下の項目で教員アンケートを行った。

授業評価	②	全クラスで行う授業評価は有意義だと思いますか。
	③	抽出統計処理されてもどってきた客観データは有意義でしたか。
	④	客観データの分析を授業に生かすよう心がけていますか。
公開授業	⑤	年2回の公開授業週間は有意義だと思いますか。
	⑥	返却された評価票の「改善が必要と思う点」は参考になりましたか。
研究授業	⑦	研究授業は授業改善に有意義だと思いますか。
	⑧	研究授業の後の授業研究会（教科会）は有意義でしたか。
小中学校授業参観	⑨	中学校の授業は自分の教科指導を考える上で参考になりましたか。
	⑩	中学校の授業研究会は有意義でしたか。
他校訪問の報告	⑪	広島県立三次高校の情報は有意義でしたか。
	⑫	機会があれば他校を訪問したいですか。
進路研修会	⑬	「理数科生徒3年間の指導の軌跡」は進路指導の参考になりましたか。
自己診断シート	⑭	自己診断シートは入力されましたか。
	⑮	自己診断シートは意義がありますか。

結果は図6のようになり、特に記述形式のものでは積極的な意見が寄せられた（表3，4）。多くの教員が授業改善の意義を認め、進路目標を実現させるために様々な工夫された実践に取り組んだ様子がわかった。

しかしながら、日常化した多忙感の中ではせっかくの取り組みも消化不良に終わってしまい、生徒が学力が上がったと実感するまでに至らないだろう。行事の精選や事業仕分けを行い、業務のスリム化を図らねばならない。

表3 教員アンケートからの意見①

No.	授業評価を受けての実践
1	評価の観点を明確にするようにした
2	板書を項目別、分野別に分けることにより、生徒が見やすくわかりやすいようにした
3	板書を見やすくするよう意識した 生徒への問いかけを多くした
4	板書計画を立てるようにした
5	生徒のコメントをノートにまとめて改善するようにした
6	授業の目標をできるだけ明確にするようにした
7	板書、スピード等に特に注意するようにした とにかくいいいわかりやすい授業の展開をするようにした
8	わかりやすい説明 余計な事を教えないように心掛ける
9	授業のポイントに時間をかけるようにした
10	こちらから質問はないか問いかけたり、机間指導を適宜して、声をかけやすくなった
11	板書をていねいに書くようにした 授業の進め具合を少し速めた
12	評価の低かった項目を意識し授業展開をするようにした
13	結果を見て板書に気を使ったり声かけを増やすなどしています
14	小テストの解説をする時間を設け、ていねいに説明するようにした
15	机間指導の時に声をかけたり「ここまでで質問ありますか？」と全体に言う回数を増やした
16	板書の書き方を工夫するようにした
17	授業のテーマを最初に宣言するようにした その日の宿題を授業の終わりに必ず確認するようにした
No.	他校訪問から参考にすべき点
1	1・2年進路検討会議のほか、国立大を目指す生徒を意識づける会 普通科2年の春から補習を入れる
2	3年間の見通しを立てた、継続的な指導の実践
3	1年生の初期指導（放課後に実施） 提出物の指導
4	コース・クラス編成の改革 教科間の統一的な教科指導方針
5	地域へのアピールの仕方 部活動との両立のさせ方 春休みの勉強合宿
6	ビジョンを言うだけに終わらず、実現するところ
7	部顧問と一体となった学習指導
8	学校全体で取り組むために進路等の情報を共有することはとても大切だと思う。1、2年生の進路検討会議が非常に有効だと考える（しかしなかなか全職員の共通理解にならないのが残念）
9	教育の内容をすべて数値化して目標にできるものではないが、特にこの学校の場合、あのような形にして教員の意識を大きく変えないと定員割れの現状を変えることはできない

表4 教員アンケートからの意見②

No.	校内研修会として取り組むとよいテーマ
1	生徒が継続的に学習に取り組んでいける習慣付けへの工夫 進路目標を設定するために短期目標(1か月単位)と長期目標(1年間)を立てられる力
2	進路指導の最も大切な時期は1年生の意識づけである。3年になれば自然と焦りも出てくるが、のんびりしている時期にいきなり力をつけさせるのが課題。初期指導のあり方を研究することは意義があるのではないか
3	挑戦させること 継続していくこと 分析すること
4	自分で取り組む力をつけさせる
5	生徒に高い目標をもたせる意識改革をどう取り組むか
6	普通科の進路希望の変遷と進路指導について
7	進学、就職、その仕事に就くためにどうしたらよいか等様々な知識が必要 常にいろいろな情報を知っておくことが大事
8	模試データの見方、とらえ方の基礎
9	3年間トータルで指導していける力 国公立の推薦枠をうまく活用する方法
10	まず学校としての3年間の指導計画を立て、それに応じて各教科で計画をつくれるようなテーマを設定するとよい
11	普通科文系生徒の進路希望をいかに確立させるか
No.	本事業に関する意見
1	最初は面倒なことと思ったが、「よりよい授業」を求めて考え、工夫するための大きなきっかけとなった。研究授業や他の先生方の授業参観、生徒による授業評価は自分の授業を客観的に見つめなおす材料となった。生徒の視点から授業を考えるようになった
2	授業改善について、個人としての取り組みだけに終わらず科全体で共通意識のもと、具体的な試みが実践できた 生徒にどれだけ還元していけるかが今後の課題であるが、継続して取り組んでいけるものはさらに改善していきたい
3	あまり意義がない。学校のスリム化の時代、職員負担が増えるのでは？
4	生徒に対してもクオリティアップに取り組んでいることを意識させる必要があると思う
5	本校に勤務して4年目ですが、年々教員の学習指導力が上がっていることを肌で感じます。また、互いに高めあえる雰囲気教科、学年で少しずつ出てきているので、様々な進路指導に対応しなければならないたいへんさはあるものの、やりがいのある学校だと思います
6	本校のクオリティはすでに高く、このような取り組みは不要とは言わないがほどほどよい
7	面倒なこともあります。自分のため生徒のため全職員で協力しなくてはいけないと思います
8	この事業により授業改善の意識が高まりました
9	作業部会に参加していたが、普段話す機会の少ない他学年や教科の先生方と情報交換できる場として有意義だった いろいろ見なおしたり、情報を共有できたり事業そのものはよかったと思う。ただ、いろいろ学校内外の業務が増えていて、一人一人の時間にゆとりがない中、心のゆとりも見失いそうで、新しいことを始めるには既存の何かを減らしていくことも重要な課題と考えます

9 研究成果の県内他高校への普及方法

① 同地区所在の高校への普及方法
・高教研地区研究会での発表・情報提供
② 同学科を設置する高校への普及方法
・ホームページ上で研究成果を発表し、普通科理数科設置校へは報告書を送付

10 本年度の課題と来年度に向けての改善方策案

課 題	改 善 方 策 案
・本事業によって実践できた多くの取り組みは継続してこそ意義あるものになる。従来からの取り組みと合わせて継続可能なものに再編成しなければならない。	・校内での事業仕分けを実施して精選することで負担感を取り除く。
・結果として生徒の希望進路が実現できたのか検証しなければならない。	・様々な改善が学力向上にどうつながったのか、模擬試験の成績や受験結果の分析を進める。
・中学生に魅力ある高校として映っているのか。特色化選抜において本校を志望する人数が増加していない。	・開かれた学校として広報活動に一層の努力をする。